

# グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム

【テーマ】大学のグローバル化と地域の企業・社会の活性化

受付開始 14:30～

【シンポジウム】 15:00～17:20

・開会の挨拶 山形大学工学部副学部長、山形大学工学部国際交流センター長、ものづくり技術経営学専攻長

フジクラ電装株式会社・特別顧問 児玉直樹氏  
もっとみらいコンソーシアム会長 長谷川健氏

・「とうほくMITRAIコースの特徴と留学生教育」 山形大学大学院理工学研究科・准教授 野田博行氏  
・「日本人学生のグローバル化教育と地域貢献型の留学生教育」 山形大学大学院理工学研究科・准教授 仁科浩美氏

・「グローバル適応型の大学形成と地域産業・社会の活性化」 明治大学・国際教育事務長 安藤章二氏

・「とうほくMITRAIコース在校生による発表」 とうほくMITRAIコース在校生

・閉会挨拶 山形大学大学院理工学研究科 教授 とうほくMITRAIコース長 高橋幸司氏

【懇親会】 17:30～19:30

都市部への人口流出、東日本大震災からの復興、国際競争の激化などが、いま山形県内の企業に深刻な影響を与えています。一方、国際社会ではグローバル化とボーダレス化が目まぐるしい勢いで進んでいます。

日本国内では、少子高齢化による市場縮小と団塊世代・熟練工の大量退職、恒常的な財政赤字、若者の内向志向などによって国際競争力の相対的な低下が課題となっています。このようななかで日本企業の事業展開や生き残りのために力ギとなるのが、世界を舞台に活躍できる人材の採用と、先見的視点を有した国際経営です。

本シンポジウムでは、上記のような観点からこれからの時代を切り拓くための「国際人材の育成・確保」「グローバル化を進める大学と地域活性」に焦点をあてて議論を深め、山形県内企業の国際展開力向上と地方活性について議論します。



山形大学大学院理工学研究科 ものづくり技術経営学(MOT)専攻  
とうほくものづくり国際人材育成プログラム  
【アジア人財資金構想 経済産業省・文部科学省連携事業】

とうほくMITRAIとは・・・Management of Technology, Monozukuri Industry Talents Relating to Asian Innovationの頭文字をとった略です。

山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学(MOT)専攻は、平成20年度から平成23年度まで、経済産業省・文部科学省の支援を受けて留学生教育を進めてきました。このプログラムは、世界各国から優秀な留学生を受け入れ、山形大学において高度な専門教育と技術経営学にかかわる特殊教育を実施するとともに、日本に関連する教育(日本語、日本ビジネス、日本文化論などの日本教育)を行うものです。これまでに大学院を修了した留学生の多くが山形県内企業に就職し、海外市場の新規開拓、技術移転、事業拡大、マネジメントなどの局面において活躍しています。山形大学では引き続き、優秀な留学生を世界各国から受け入れ、山形県や東北地域の企業への就職を促すことで、グローバル展開を推進する企業を支援していきます。

【日時】平成27年5月13日(水) 15:00～17:20

主催：“もっとみらい”コンソーシアム／共催：山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻



会場：山形大学工学部「100周年記念館」(セミナーホール)  
〒992-0038 米沢市城南4-3-16

米坂線「米沢駅」よりバスで10分「山大正門前」下車

参加費：シンポジウム：無料（懇親会は：2,000円(当日)）

申込方法：このチラシ裏に必要事項を記入のうえ、FAXにてお申し込みください。または裏面の記載事項を明記のうえ、メールにてお申し込みください。

シンポジウムのテーマ、山形大学の取り組む国際人材育成、グローバル展開支援、コンソーシアム活動、社会人育成、留学生教育などに興味・関心のある方は自由に参加できます。



【申し込み先】 もっとみらいコンソーシアム事務局

FAX: 0238-26-3772

メールアドレス: takesi-w@indigo.plala.or.jp

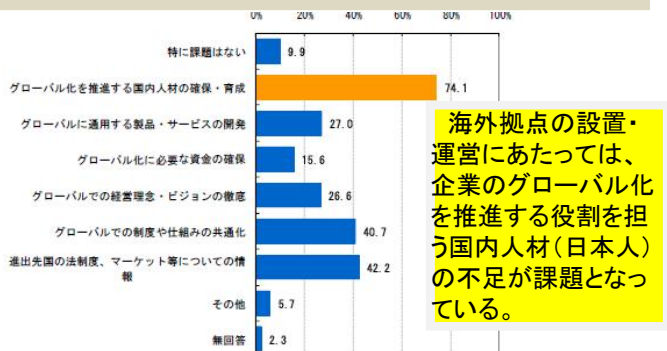
【問い合わせ先】 山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻とうほくMITRAIコース

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 TEL: 0238-26-3622

# グローバル化に関する課題と国際人材の採用

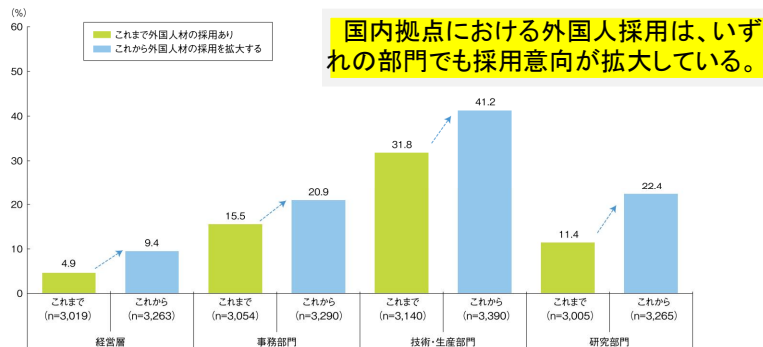
今後、世界経済は先進国ではなく新興国・開発途上国において市場が急拡大するものと見込まれています。しかし、これまで技術・ものづくりを先導してきた日本企業は、グローバル化の波に十分に乗りきれず、相対的な国際競争力が低下していると指摘されています。若者の内向性、少子高齢化と人口減少、恒常的な財政赤字、団塊世代の大量退職、技術の継承など様々な問題を背景に、いま我々は変革と行動が求められています。

## グローバル化の推進にあたっての課題



海外拠点の設置・運営にあたっては、企業のグローバル化を推進する役割を担う国内人材(日本人)の不足が課題となっている。

## 国内拠点におけるこれまでの外国人材採用状況と今後の採用意向(製造業)



国内拠点における外国人材採用は、いずれの部門でも採用意向が拡大している。

資料: 経済産業省調べ(13年2月)

(出所) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省編「2013年版ものづくり白書」経済産業調査会。

出所) 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」

(出所) 産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会編(2010)「～産学官でグローバル人材の育成を」経済産業省  
(http://www.meti.go.jp/press/20100423007/20100423007-3.pdf)。

今回のシンポジウムでは地方大学のグローバル化に着目し、大学の多様化と国際化がどのように地域企業や地域社会を活性化させ、影響を及ぼすのかということについて、複数の大学の事例なども含めて議論を行います。



### 立命館アジア太平洋大学:

2000年に大分県別府市に開学した大学で「APU」と総称する。世界各国から優秀な学生を集め、日本国内でトップクラスの外国人留学生数を誇る私立大学。2014年には在校生約5,800名のうち、留学生数は約2,600名を数える。教員の約半数は外国籍であり、多文化・多言語の環境を備え、英語と日本語による2言語教育システムを展開。留学生と日本人学生は、APハウス(学生寮)に入り、相互に異文化が理解できるような仕組みを構築。日本のグローバル化を先導する大学として有名であり、地域産業やコミュニティーも留学生のもたらす能力・資源を利用して活性化を図っている。日本人学生の国際化教育と高い就職率でも有名であり、全国から注目を集める。

### 基調講演講師プロフィール:

明治大学・国際教育事務長 安藤 章二 氏

1995年に住友銀行(現三井住友銀行)を退職し、学校法人立命館に入職。立命館大学及び立命館アジア太平洋大学において、教務部門や企画部門に従事し、2014年4月より現職。主に外国人留学生に対する産学連携によるキャリア教育支援に取り組んでいる。

## 【グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム】

申込締切日: 平成27年5月8日(金)

FAX番号: 0238-26-3772 / メールアドレス: takesi-w@indigo.plala.or.jp

※メールの場合はタイトルに「シンポジウム申込」と記載のうえ下記の内容を明記してお送りください。

ご氏名(ふりがな)			
ご所属(会社名)			
ご連絡先	〒		
電話番号	懇親会 (どちらかに○)	参加する ・ 参加しない	